



学校だより

CONTENTS

特集<学生の活躍>	
The frog in the well knows…/4K 岩佐 茜	2
成長できた全国大会/3C 田島 紗優	2
挨拶	
4年ぶりの体育祭開催!/校長 三谷 卓也	3
雨降って地固まれ!/後援会会長 酒井 義明	3
全国高等専門学校体育大会	
全国大会出場報告	4
令和4年度全国高等専門学校体育大会結果一覧	6
令和4年度関東信越地区高等専門学校体育大会結果一覧	7
第33回全国高等専門学校プログラミングコンテスト 群馬大会	8
コンテスト・全国高等専門学校将棋大会	10
令和4年度地区文化発表会	12
1日研修旅行	13
社会見学旅行	16
インターンシップ報告	18
NEWS&TOPICS	19

第127号

2022.12.13 広報委員会発行



独立行政法人 国立高等専門学校機構
群馬工業高等専門学校
 National Institute of Technology (KOSEN), Gunma College

〒371-8530 群馬県前橋市鳥羽町580番地 <https://www.gunma-ct.ac.jp/>

(題字・下田 功 初代校長)

学生の活躍

ISEF2022 出場「文部科学大臣特別賞」受賞

The frog in the well knows…

4K 岩佐 茜

The frog in the well knows… everything?

いや、そんなことはない。そう！

井戸の中の蛙は世界を知ることにはできない。高専で生活している皆さんに聞きたい。世界中の高校生が青春をかけて行っている研究発表を知っているだろうか？

私は JSEC という日本国内の大会で栗田工業賞をいただき、ISEF (International Science and Engineering Fair) に日本代表の一員として出場させていただくことができました。ISEFは世界中の高校生の研究者たちが自分の研究を披露しあうコンテストで、今年はアトランタで開催されました。残念なことに私たち日本代表は現地参加が許されませんでした。オンラインで海外の先生方にむけて研究発表を行うことができました。

そして、日本代表になったことを受けて8/25に文部科学省を表敬訪問し、文部科学大臣特別賞を受賞しました。文部科学大臣に研究についての激励のお言葉をいただき、とても光栄な経験をすることができました。

私はこの2年間、様々な大会で研究発表を行い多くの賞を受賞することができました。これもひとえに、顧問の齋藤先生をはじめ、実験室を貸してくださった宮越先生、研究指導をくださった高崎量子研の八巻先生並びに東京海洋大学の柴田先生、そして事務の方々などの多くの関係者の皆様からのご支援があったからこそです。低学年から研究をする環境をご提供いただきありがとうございました。

やはり、“The frog in the well knows nothing of the great ocean”なのです。井戸の中の蛙は外の世界を知ることにはできない。自分から外の世界を知ろうとしなければ、視野は広がらないのです。



柔道 女子個人戦 全国優勝

成長できた全国大会

3C 田島 紗優



今回の大会参加のきっかけは、今年の4月に顧問の大島先生に勧められたことです。中学3年生で部活を引退してからは練習する機会がなかったので、正直不安でしたが参加することにしました。道場や部活での練習を再開した直後は、少し動くだけで疲れてしまい、練習についていくことだけで精一杯でした。そんな中開催された関東信越地区大会。結果としては決勝のゴールデンスコアで4分以上の試合の末、負けてしまい準優勝、とても悔しかったのを憶えています。この時に私は全国大会までの残り1ヶ月半、より練習を重ね、より技を磨き、より多く勝ち進みたいと心に決めました。そう決めてからは、ついていくのに精一杯だった練習も技のスピードやタイミング等を意識して取り組み、普段は厳しい道場の先生から中学の時よりも良くなってるよと言われてとても嬉しかったです。そして迎えた全国大会。1回戦、1回戦を勝ち進み、とうとう決勝戦です。3分間の試合の中で今までの練習の成果を出し切ることができ、優勝することができました。しかし、この結果は私1人の力では決して成し得なかったものです。きっかけをくれた大島先生、

一緒に練習した部活や道場の仲間、応援してくれた友達や両親及び大会関係者などの全ての方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



校長挨拶

4年ぶりの体育祭開催！

校長 三谷 卓也

10月26日、雲ひとつ無い青空の下で行われた令和4年度体育祭は、これまでのコロナ禍の影響もあり、実に4年ぶりの開催となりました。4年ぶりとなると、ほとんどの学生が前回の体育祭を経験していないため、学生たちの期待もかなり大きなものがあったようです。

それぞれの競技に参加し、応援している学生たちは、皆真剣で、とてもいい笑顔でした。中にはコスプレをしてチームや競技を盛り上げた学生たちも。1人1人



思い思いに体育祭を楽しんでいたようです。かくいう私も、人数が足りないチームに参加させてもらい、学生たちと一緒に綱引きをし、大縄跳びに挑戦しました。普段全く運動しない私にとって、こんなに運動をしたのは何年ぶりでしょう！一緒に競技をし、学生たちとハイタッチして…というのは教育現場にいるからこそできる何よりの瞬間だと、私自身も楽しんでいました。

忘れてはいけないのは、学生会や体育委員、陸上競技部員たちの協力です。競技の準備、進行補助や審判、アナウンスや協議結果の集計等々、教職員と一緒に大会運営や競技を盛り上げてくれた彼らの協力無くしては成り立たなかったと思います。うれしかったのは、そういった裏方も楽しんで取り組んでいたことです。実際、終わった後には「校長先生、体育祭毎年できないんですかね？」との声も。

これからもこういった行事等を楽しみながら、いろいろな体験・経験をしていって欲しいと思います。

後援会会長挨拶

雨降って地固まれ！

後援会会長 酒井 義明

2019年の12月に始まった新型コロナウイルス感染症が私たちの生活に影響し始めて3年が経ちました。この間、子供たちの学校生活には大きな影響が生じ、後援会事業でも多くの行事が中止となりました。

しかしながら、今年度に入り徐々にこれまでの生活に戻ってきて、学生の活発な活動の知らせを聞けることは嬉しい限りです。後援会事業においても、総会は書面開催としたものの地区懇談会は全地区で開催することができました。ご協力頂いた教職員の皆さま、役員の方々の皆さまそして参加していただいた多くの会員の皆さまに感謝申し上げます。

今後、新型コロナによる生活様式の変化、気候変動への適応等大きな変革が必要となります。学生の皆さんにはこれまで以上に色々なことにチャレンジしていた

だきたいと思います。そして後援会ではコロナ禍の経験も生かして、学生の多様な活動を保護者の方々から安心して見守ることができる、より良い環境を創っていきたいと思います。



感染防止対策を行いながらの地区懇談会のようす



2022 全国高等専門学校体育大会

全国体育大会出場報告



陸上競技部

全国大会を振り返って 2年2組(K) 関 優太

大会とは目標であり、戦である。
8月19日。先日の関東大会での「次は負けねえ」というライバルの言葉と緊張を胸に、決戦の地、愛媛県にあるニンジニアスタジアムへ向け飛び立った。
招集が終わり、刻々と出番が近づくにつれて、周りで着々と準備を進めるライバルたちが、より速そうに見える。先輩は既に走り終え、3000mで四位入賞の座を手にしており、それに続けるように決勝進出へ向けスタートを切る。しかし、結果は全体11位で予選敗退であった。とはいえ、全国という舞台上で走り切ったという貴重な経験を次に生かさねばならないだろう。
来年こそは決勝進出を勝ち取ると心に決めたのだから。大会を謳歌せし者達は、常に己を磨き続け、この時も訓練

に動んでいる。
彼らは優勝の二文字の前ならば、どんな過酷な試練であろうとも乗り越えてみせるだろう。彼らにとってそれは、通過点でしかないのだから。結論を言おう。
スポーツを愛する戦士ども、燃え上がれ！
—あとがき—
保護者の皆様を初めとした応援してくれた方々、本当にありがとうございました！



テニス部

テニス部 4K 内海 咲紀

今年は2年ぶりに地区大会が開催され、全国大会に行くことができました。私は全国大会に行くことを目標に頑張っていたので、4年生で行くことができ本当に良かったです。
今年は地区ごとに女子団体のチームが生まれ、新しいこともある全国大会でした。地区大会では敵として戦っていた人達とチームメイトとして一緒に戦うのも楽しかったですし、九州などいろんな地域の方たちと練習もできてとても濃い4日間でした。試合では負けてしまいましたが、得るものがとても多く、改めて全国大会に行けてよかったと強く思いました。同

じ地区の人が優勝したこともとても嬉しかったです。
今年の全国大会は私だけの出場でしたが、来年度は男子も一緒に行けたらいいと思います。これからも支えてくれる方々や部活動ができるこの環境に感謝して、自分たちの目標に向かって頑張っていこうと思います。



バスケットボール部

全国大会withみかん 3K 森脇 憩

2022年8月、私たち群馬高専女子バスケットボール部は全国大会へ行ってきました。2021年度は、4校の中から勝ち上がった全国大会、今年は9校の中から勝ち上がりつかみ取った全国大会の出場でした。会場は愛媛県松山市。移動は慣れない飛行機。現地では、みかんジュースを飲みつつ会場へと向かいました。一回戦の相手は、強豪の松江高専でした。皆が全力で臨んだ試合でした。しかし、結果は惨敗。全国大会のレベルの高さを感じました。
今回の全国大会を振り返ると、試合結果は残念なものでしたが、それ以上にたくさんのお話を学ぶことができました。特に、

強いチームのイメージができたことが大きな学びでした。私たちの次の目標は、全国大会出場、そして準決勝に進むことです。その目標に向けて今後もみんなと頑張っていきたいと思っています。



ソフトテニス部

来年度へ向けて 3K 丹羽 晃崇

全国高専大会には丹羽赤羽の1ペアが参加した。ペアの赤羽と協力し、関東では準優勝をすることができた。そして迎えた全国大会では仙台名取との初戦でゲームカウント2-4で負けてしまった。昨年度と比較し成長は感じる事ができたが、課題は多くあるため、これからはつないでいきたい。関東甲信越大会の団体では全国に繋ぐことができなかった。今までソフトテニス部を引っ張り、昨年度に悔しい想いを共にした先輩方は引退してしまう。もっと一緒に練習したいという想いや去年の負けた悔しさが、一緒に全国で勝ち上がりたいという想いが大きくなっていった。そのため、団体で負けた際には悔しくてたまらなかった。そのような先輩方に感

謝と今度は自分が引っ張って行く自覚を持ち、団体個人ともに、もう一度全国へ出場し勝ち上がっていきたい。



サッカー部

全国大会を経て 3E 原澤 伶

僕は全国大会に出て色々な事を経験しました。その中でも1番書きたい事は、熱量の差についてです。
この差とは他のチームと比べてという事でもあります。それを1番感じたのは、自分のチーム内ででした。どういう事かという、4、5年生いわゆるチームの主力でこの大会が最後となる人達と、いつもベンチスタートでなまじ旅行気分だった自分との、試合に対する思いに大きな差があったという事です。その証拠に、試合に負けたあと先輩たちは悔し涙を流していましたが、僕は試合に出たにもかかわらず、泣くほどの悔しさはありませんでした。この熱量の差は技術や体力がない事よりも重大な問題です。だから最後の大会だった先輩たちには本当に申し訳なかったです。

なので来年全国でリベンジするためには、技術や体力などを身につける他に、全員が同じ思いで試合に臨めるようにしなければなりません。難しい事ですが、頑張ります。
最後に、お世話になった、保護者の皆さま、先生方、OBの皆さま、そしてコーチ、本当にありがとうございました。



卓球部

初の大舞台 4J 粟盛 智也

私たち卓球部は、7月に長野県で開催された高専大会で男子団体と女子ダブルスの両方が準優勝し、全国大会への出場権を勝ち取ることができました。
ここしばらくはコロナ禍ということもあり、練習時間が思うようにとれず、また高専大会自体もここ2年間は開催されていなかった中で全国大会への出場権を獲得できたことはとても嬉しかったです。
その約一月後に高知県で全国大会が開催されました。結果は残念ながら男女ともに一回戦負けでしたが、今後の課題点を見つかったり、ハイレベルな試合を観戦したりと、今後の練習や次の高専大会へ向けた良い刺激になったと感じています。

また、2泊3日の日程だったこともあり、選手たちの仲もより深まったと感じ、今後はさらに良い結果が期待できそうです。

今後とも頑張ってもらいますので応援のほどよろしくお願いいたします。



2022 全国高等専門学校体育大会

出場報告

柔道部

みんなで全国出場

3J 井上 大勢

8月27日から2日間に渡って全国大会が行われ、団体戦と個人戦(2名)に出場しました。団体戦では、改めて全国大会のレベルの高さを痛感しました。主に筋力と体力にかなりの差があり、土俵にすら立たせてもらえていないような感覚でした。今回のような一方的な試合にならないように来年はもっと実力をつけて臨みたいと思います。

柔道部は去年まではコロナのためにまともに活動ができなかったため、正直全国大会に部員全員で出場できると思っていなかった。それどころか、女子個人戦では全国優勝者も出てとても驚いています。

部員の皆さんは全国大会お疲れ様でした。皆さんがいなかったらこのような貴重な経験はできませんでした。ありがとうございました。



全国大会にて

僕は今年、関東大会でベスト4入りし、全国大会出場を決めました。大会当日は、「今年こそ絶対勝つ」と意気込んで一回戦に臨みました。試合はほとんどの時間が相手選手のペースだったのでかなり厳しい状況でした。なんとか耐えることができ、そのまま決着がつかないまま延長戦に突入しました。お互い決め手がないまま5分が過ぎ、体力も限界に近づいていました。極限状態の中、ついに僕の攻めが相手に効きました。「今だ!」相手が打とうとした瞬間の隙をつき、勝利することができました。2回戦目では、逆に油断したために打たれてしまい、負けてしまいました。ですが、この大舞台で勝ったの

は初めてで全身が震える程嬉しかったのを今でも覚えています。勝ち上がったのは、先生方やチームメイトをはじめとする多くの方々に支えていただいたおかげです。



令和4年度 全国高等専門学校体育大会結果一覧

種目	開催校	開催期日	結果
陸上競技	弓削商船	8月20日 8月21日	男子100m 予選敗退 関 優太 11秒29
			男子200m 予選敗退 関 優太 23秒47
			女子800m 予選敗退 金子 美乃莉 2分39秒47
			女子3000m 4位 金子 美乃莉 11分24秒55
			男子団体戦 予選リーグ敗退
卓球	高知	8月20日 8月21日	群馬 0-3 岐阜
			群馬 0-3 神戸市立
			原野 恋羽・菅谷 美羽
			群馬 0-3 広島商船
			群馬 0-3 岐阜
群馬 3-1 神戸市立			
女子個人戦ダブルス 予選リーグ敗退			
サッカー	香川(詫間)	8月20日 8月21日 8月23日 8月24日	男子 1回戦敗退
			1回戦 群馬 0-4 久留米
テニス	阿南	8月24日 8月25日 8月26日	女子団体オープン戦 1回戦敗退 関東信越地区 1-2 中国地区
			女子シングルス 1回戦敗退 内海 咲紀
剣道	阿南	8月25日 8月26日	男子個人 2回戦敗退 狩野 丞
バスケットボール	弓削商船	8月27日 8月28日	女子 1回戦敗退
			1回戦 群馬 34-89 明石
ソフトテニス	香川(高松)	8月27日 8月28日	男子ダブルス 1回戦敗退 丹羽 晃崇・赤羽 泰地 2-4 仙台名取
柔道	香川(高松)	8月27日 8月28日	男子団体 予選敗退
			女子個人戦 52kg級 優勝 田島 紗優
			女子個人戦 57kg級 1回戦敗退 辻本 瑞穂

令和4年度 関東信越地区高等専門学校体育大会結果一覧

種目	開催校	開催期日	結果	備考
陸上競技	長岡	7月9日 7月10日	男子総合(学校対抗) 7位	
			女子総合(学校対抗) 5位	
			男子100m 準優勝 関 優太 11秒08	全国大会出場
			11位(予選) 藤田 裕貴 11秒99	
			男子200m 3位 関 優太 22秒59	全国大会出場
			9位 園田 瑠榎 24秒44	
			男子400m 11位 関根 瑞基 56秒29	
			12位 武藤 瑞生 56秒87	
			男子800m 11位 黒澤 陸 2分24秒15	
			12位 金井 晶 2分37秒15	
			男子1500m 11位 萩原 伊吹 4分54秒41	
			14位 浅井 裕太郎 5分04秒29	
			男子5000m 5位 樋口 泰平 17分42秒88	
			12位 内田 智也 23分48秒34	
			男子3000mSC 7位 黒岩 駿越 11分57秒00	
			男子4×100mR 6位 佐藤 真那斗・藤田 裕貴・横田 悠音・加藤 吏仁 46秒80	
			男子走幅跳 6位 山崎 奨 5m76	
			14位 高橋 唯斗 5m05	
			女子800m 準優勝 金子 美乃莉 2分39秒00	全国大会出場
			女子3000m 準優勝 金子 美乃莉 11分35秒20	全国大会出場
女子200m個人メドレー 優勝 櫻井 花梨 2分37秒00	全国大会出場			
女子100m自由形 準優勝 櫻井 花梨 1分05秒07	全国大会出場			
男子800m自由形 4位 清水 怜 11分02秒26				
男子400m自由形 6位 北爪 大夢 5分52秒87				
男子200m個人メドレー 8位 堀田 純心 2分51秒99				
水泳	木更津	7月18日	1回戦敗退	
			1回戦 群馬 3対6 木更津	
野球	長岡	6月25日 6月26日	男子 予選リーグ敗退	
			群馬 0対2 木更津	
			群馬 2対1 東京	
			群馬 0対2 産技荒川	
バレーボール	サレジオ	7月2日 7月3日	女子 準優勝	
			予選リーグ 群馬 2対0 サレジオ	
			群馬 2対0 産技荒川	
			決勝リーグ 群馬 0対2 木更津	
群馬 2対0 長岡				
バスケットボール	群馬	7月2日 7月3日	男子 予選リーグ敗退	
			群馬 75-89 産技品川	
			群馬 56-95 木更津	
			女子 優勝	全国大会出場
準々決勝 群馬 76-51 茨城				
準決勝 群馬 74-41 長野				
決勝 群馬 61-54 長岡				
サッカー	産技品川	7月16日 7月17日	優勝	全国大会出場
			1回戦 群馬 4対0 産技荒川	
			準決勝 群馬 3対1 茨城	
			決勝 群馬 2対0 小山	
テニス	小山	7月16日 7月17日	男子団体戦 3位	
			1回戦 シード	
			2回戦 群馬 3-0 産技荒川	
			準決勝 群馬 1-2 産技品川	
女子シングルス 準優勝 内海 咲紀	全国大会出場			
ソフトテニス	東京	7月2日 7月3日	男子団体戦 準々決勝敗退	
			予選リーグ 群馬 3対0 産技品川	
			群馬 0対3 木更津	
			準々決勝 群馬 0対2 長野	
男子ダブルス 準優勝 丹羽 晃崇・赤羽 泰地	全国大会出場			
群馬 4対3 東京				
群馬 4対2 長岡				
群馬 4対2 長野				
群馬 4対0 茨城				
群馬 0対4 長野				
卓球	長野	7月2日 7月3日	男子団体戦 準優勝	全国大会出場
			1回戦 群馬 3対0 産技品川	
			準々決勝 群馬 3対1 長野	
			準決勝 群馬 3対1 茨城	
決勝 群馬 0対3 長岡				
男子個人戦シングルス 入賞者なし				
男子個人戦ダブルス 3位 栗盛 智也・安藤 朝都				
女子個人戦シングルス 3位 菅谷 美羽				
女子個人戦ダブルス 準優勝 原野 恋羽・菅谷 美羽	全国大会出場			
バドミントン	茨城	7月9日 7月10日	男子団体戦 2回戦敗退	
			女子団体戦 3位	
			男子個人戦ダブルス 3位 佐藤 悠生・志村 真輝	
			男子個人戦シングルス 入賞者なし	
女子個人戦ダブルス 入賞者なし				
女子個人戦シングルス 入賞者なし				
柔道	産技荒川	7月9日	男子団体 準優勝	全国大会出場
			1回戦 群馬 3対2 東京	
			準決勝 群馬 3対2 産技品川	
			決勝 群馬 0対4 長岡	
男子個人戦 66kg級 入賞者なし				
男子個人戦 無差別級 優勝 飯田 優	全国大会出場			
女子個人戦 52kg級 準優勝 田島 紗優	全国大会出場			
女子個人戦 57kg級 優勝 辻本 瑞穂	全国大会出場			
剣道	小山	7月3日	男子団体戦 入賞者なし	
			女子団体戦 準優勝	
			男子個人 3位 狩野 丞	全国大会出場
女子個人 入賞者なし				



3年ぶりのプロコン現地開催 ～開催側からの目線で～



主管校事務局長(電子メディア工学科 准教授) 布施川 秀紀

3年ぶりに現地集合で全国高専プログラミングコンテストがGメッセ群馬にて開催されました。当日は、課題部門20チーム、自由部門19チーム、競技部門43チームが参集し、大成功のうちに終わることができました。

2020年の苫小牧大会、2021年の秋田大会は、新型コロナの影響でオンライン開催でしたので久しぶりの対面開催となりました。



そのため、全国プロコン実行委員の先生方もいろいろと忘れていたところもあり、準備段階から大変なところもありましたが、本校教職員、アシスタント学生の支援により大きなトラブルもなく、ほぼ予定通りに大会を進めることができました。

特にアシスタント学生については、前日の表彰式リハーサルでも手際よく行動し飲み込みも早く、プロコン委員の先生よりお褒めの言葉をいただきました。また、YouTubeライブ配信の支援においても、機器の配線やビデオカメラの配置を率先して作業し、ライブ配信を担当したヤフーの社員さんも感心していました。さらには、次年度の福井でのプロコンに



も手伝いに来てほしいとプロコン委員の先生からも誘いを受けるほどでした。

最後に前日の会場準備から大会当日の運営に尽力いただいた教職員、アシスタント学生の皆さん、特に夜遅くまで作業していただいた学生支援係のみなさんに感謝いたします。



競技部門出場

高専プロコン競技部門参戦記2022

4J 水野 哲郎

2022年度の高専プロコン、競技部門に参加しました。去年はオンラインでの開催でしたが、今年は群馬のGメッセで、実際の会場に集まって競技を行うことができました。今年の競技は、上毛かるたを読み上げた音声をいくつか重ね合わせた音声から、何の札が読み上げられているかを当てるかるた競技でした。各チームは正解の札を精度よく推測するプログラムを開発し、その完成度を競うこととなります。

準備不足もあり、結果は準決勝敗退と振るいませんでしたが、実際の会場で競技を行ったことで、たくさん刺激をもらった二日間であったと思います。課題部門および自由部門で紹介される作品や、企業ブースで企業の方に伺った話はどれも興味深く、競技に出場する立場としてだけでなく、一般の参加者としても高専プロコンを楽しく、有意義に過ごすことができました。



来年の高専プロコンは福井県で行われます。ロボコンよりも知名度のないプロコンの、その中でもマイナーな競技部門ではありますが、ほかにはない魅力がある大会だと思います。興味があれば、来年の参加を考えてみてはいかがでしょうか。

自由部門出場

多くを学べたプロコン

3M 藤田 裕貴

私たちは、10月15日と16日の2日間にわたって行われた、全国高等専門学校プログラミングコンテストに出場しました。

私たちが参加した自由部門では、全国の高専から予選を勝ち抜いて来た20チームが、自分たちで開発したシステムやアプリを持ち寄って来ていました。この大会では、私たちがのような出場者も、他チームの作品について説明を受けたり、実際に体験したりすることができました。そこでは、自由部門ならではの斬新な発想、また、それを実現させることのできる技術についても見る事ができました。ほかにも、課題部門、競技部門やたくさんの企業の方々ブースを用意し、事業について個別に説明して下さる機会があり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

大会の結果としては、自分たちの努力が功を奏し、企業賞を頂くことができました。もちろん、受賞できたことは何よりも嬉しく、この大会のために頑張ってきたよかったです。

と、私たちに思わせてくれました。

しかし、それだけではなく、私たちは今大会を通して、全国にはこんなにも多くの仲間、あるいはライバルがいるのだと、また、その人たちのレベルの高さを実感することができました。これからはもっと積極的にプログラミングを学び、さらに技術を磨いていきたいと思っています。



ロボコン地区大会

3年ぶりの対戦形式で快挙!

3M 今泉 俊亮

本研究会は、10月16日に栃木県立県南体育館で行われた「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022 関東甲信越地区大会」に出場しました。今回のお題は「ミラクル☆フライ～空へ舞いあがれ!～」、ロボットが自作の紙飛行機を飛ばして様々なオブジェクトに乗せて点数を競いあう対戦競技です。ルール発表が行われた4月から10月までの間A、Bチームに分かれ、それぞれ特色のあるロボットを製作しました。

3年ぶりに行われた現地開催だったため、移動やスケジュール管理など部員に経験がない状態でした。また、体育館と大会会場では紙飛行機のコンディションが微妙に異なるなど、両チームとも前日まで調整を重ねる困難な大会となりました。

結果的にAチームが優勝、Bチームが準決勝進出という好成績を残すことができました。群馬高専の地区大会優勝は13年

ぶり、3年連続全国大会出場です。Bチームも全国大会は逃したものの、「牧野フライス製作所」から特別賞をいただきました。来年度もこの記録に続くように活動していきたいと思います。



悲願の完漕達成

4C 伊藤 涼

今年3年ぶりに埼玉県の彩湖でコンクリートカヌー大会が行われました。コンクリートカヌー大会はレースの結果とカヌーの構造、材料等を書いた事前審査資料の点数と合計で順位が決まります。群馬高専が提出した事前審査資料は50点の最高点で、レースの順位によっては総合優勝もありうる点数でした。しかし、現実には甘くなく本番前の練習でカヌーが転覆、側面が大きく破損しレースに参加できる状態ではなくなってしまいました。一瞬欠場という言葉が頭をよぎりました。それでも、あきらめず仲間や先生と協力し何とかカヌーを修復し予選に参加することができました。予選では蛇行を繰り返しながらも必死でカヌーを漕ぎなんとか完漕、敗者復活戦を経て準決勝まで進出しました。結果は19校中総合6位で、競漕の部では総合優勝の学校を除くという規定があり大学・高専の部でレース順位が2番目だったため群馬高専が受賞しました。1年生ではカ

ヌーが沈み完走することができませんでしたが仲間や先生方の助けもあり、雪辱をはらし完漕することができ本当に良かったと思います。



Honda エコマイレッジチャレンジ

記録更新を目指し3年ぶりの大会へ

3M 新井 優生

令和4年10月2日に栃木県のモビリティリゾートもてぎで行われたHondaエコマイレッジチャレンジ2022全国大会に我々エコノパワー愛好会は出場してきました。

そもそもエコマイレッジチャレンジとはどんな競技でしょうか?この大会ではHonda製50cc4ストロークエンジンを使用した車両でガソリン1リッターあたりの燃費を競います。今回は全国規模で開催される大会のため、1周2413mのオーバル状の大きなコースとなり、10月1日に練習走行、2日に本番という日程でした。当愛好会ではグループ3と呼ばれる大学、短大、高専クラスの車両1台と市販車の形を残した二輪車クラスに1台出場しました。

まず練習走行の1日目、本番同様に燃料を計測し結果がでます。グループ3のほうで551.262km/L、二輪クラスは制限時間オーバーで170.787km/Lというまずまずの結果です。そして、本番の2日目、二輪クラス出場車両が燃費

169.943km/Lで完走車両28台中11位、グループ3出場車両が残念ながらマシントラブルにより途中棄権という悔しい結果になりました。1～3年生にとって初めての全国大会、この経験をもとに記録の更新を目指してまた努力していこうと思います。



令和4年度 全国高等専門学校将棋大会

決勝トーナメント進出!!

3J 吉田 光来

私たち将棋部は8月24日から27日にかけて、全国高等専門学校将棋大会に参加しました。場所は北九州市の小倉で開催されました。この大会は団体戦と個人戦があり、群馬高専将棋部は団体戦に3人で1組、個人戦に5人で出場しました。団体戦は最低でも試合を3回行い、全勝したチームのみが準決勝、決勝に進めるというものです。団体戦は惜しくも初戦で1-2で負けてしまいましたが、2回戦、3回戦はそれぞれ2-1、3-0で勝つことができました。個人戦は、予選リーグでは各個人が先に2勝するか2敗するかで決勝トーナメントに進めるか決まり、その後は前述したようにトーナメント方式で、1回でも負けるとその時点で終了になるというものです。個人戦では、5人全員が決勝トーナメントに進出しました。その後、決勝トーナメント1回戦で

2人敗退し、2回戦で同じく2人敗退し、1人3回戦で敗退しました。その3回戦まで残った1人はベスト16という結果になりました。来年は岐阜で開催されるので、次回はより棋力を高め、全国高等専門学校将棋大会に参加したいと思います。



令和4年度 地区文化発表会

3年ぶりの文化発表会

学生会文発担当 4J 登坂 真伍



文化発表会は、関東信越地区にある高専の文化部が集まって、それぞれの活動の紹介や交流を行うために開催されています。今年度は完全オンラインで3年ぶりに開催され、各高専の個性溢れる活動を体験することが出来ました。群馬高専からは5団体が参加し、自

らの活動を発信してくれました。

来年度は群馬高専が主幹校となっており、実地開催を予定しています。魅力的な文発を開催できるように、準備を進めていきたいと思います。

写真部

次回に期待

3C 上坂 一貴

夏季休業中の8月20日に、文化発表会が開催されました。写真部では、オンライン形式での発表に合わせるために、部員から展示したい写真を募集し、それに説明文を付け加えた画面をスライド形式で表示する動画を作成しました。部員が撮影した写真はどれも心こもった写真で、とても楽しく動画を作成させていただきました。次回は現地で開催でき、たくさんの意見をいただくことができればさらに良い発表会になると思いました。

電算部

初めての文発を見て

2年5組 (J) 飯島 慶士

8月20日、第42回文発がオンラインで開催されました。電算部ではD言語という誌名の部誌の掲載をしました。Web版は電算部のTwitterでも紹介しているので、ぜひ読んで下さい。私自身は他高専のバンドを鑑賞したり、文芸部のサイト制作を手伝ったりし、オンライン文発を充実したものにできました。来年度は部誌を書くなどとして、より精力的に活動していきたいです。

文芸部

文発と納期

3J 小暮 勇輝

文発は納期との戦いでした。僕は納期を守ることが苦手なタイプです。とにかく僕は頑張りました。文字通り、三日三晩、納期と戦いました。その結果、ご覧になった方もいると思いますが、文発で公開するホームページが完成しました。ですが、肝心の、本当に肝心の、自分が発表する作品の原稿は間に合いませんでした……。これでは本末転倒です。納期の大変さを思い知った文発になりました。

美術部

オンラインでの発表

3J 中曽根 瑠香

今年は2年ぶりに関東信越地区文化発表会が開催されました。多くの部活がオンラインで参加し、美術部は部活のSNSアカウントを使って作品の展示をしました。発表形式に細かい指定がなかったので、多くの人が気軽に鑑賞できる展示にできています。また、他校の発表もオンラインで楽しむことができました。実地開催に参加できなかったのは残念ですが、新しい形式で参加できて貴重な体験となりました。

演劇部

時間、部員、前例 足りないものしかない文化発表会

2年2組 (M) 北爪 大夢

部員全員が初となる文発はオンラインだった。オンラインでの公演という物自体初の試みであり、初の試みをするにはあまりにも時間がなかった。ただオンラインだからこそのこともあるはずと考え短い時間のなかであつたが無事完成させた。正直、自分としては完ぺきな公演ができたとはいえない。だが、今まであまり見えなかった改善点も見つけられ、これからの演技をよりよいものにさせる素晴らしい時間を送ることができた。

1 日 研 修 旅 行

1年1組 研修旅行

1年1組 結城 安理

僕たちは研修旅行で埼玉県立川の博物館と、株式会社ニコンに行ってきました。川の博物館では、鉄砲壱などの昔からの技術を学び、アドベンチャーシアターという施設で空や川を下る疑似体験ができました。株式会社ニコンでは、光を利用した金属加工機を見学し、工場で働く人の貴重な話を伺うことができました。実際の加工品にも触れることができ、良い経験となりました。一組の皆と親睦を深める機会にもなり、いい研修旅行でした。



私たちの未来を考える

1年2組 神崎 柚人



9月22日、1年2組は日本科学未来館を訪れました。生命、地球、情報、イノベーションといった様々な分野に分かれた展示スペースがあり、そのどれもが示唆に富んだ内容で、新しい発見がたくさんありました。また、館内のレストランで食べたNEXT牛丼（代替肉を使った牛丼）や、ショップで販売していた昆虫食もとても印象的で、未来の食生活について考えさせられました。様々な新しいものに触れ、学びの多い一日になりました。

マイルド・スピードSUPER KOSEN

1年3組 宮田 燈一郎

高専生活初めての研修旅行、1年3組は国立科学博物館へ行きました。友人と館内を周り、館内の展示で物理を体験したり、様々な動物の剥製を観たりしました。ところが科博にいた時間は約3時間、バス移動だったので約5時間ほどはバスの中でした。しかしその時間も友人とお絵かきゲームなどをしてとても楽しみました。高専らしい自由なルールで新しい友人と行く科博は新しい魅力や楽しみ方を発見することができて、とても楽しかったです。



首都圏の水瓶・ハッ場ダムから泉質主義・草津を堪能

1年4組 佐藤 洸



1年4組の研修旅行では、ハッ場ダムと草津温泉へ行った。ハッ場ダムでは、一般の人が立ち入ることが出来ない地下4階で、この機会で見学することの出来ないダム内部の設備を見学した。草津温泉では、各自が自由に草津の温泉街を散策した。今回の研修旅行は、新型コロナウイルスの影響で旅行が出来なかった中での、久しぶりの旅行として、クラスの友達と楽しみながら、いままで知らなかったことを数多く知る、貴重な機会となった。

あれ？意外と楽しいじゃん

1年5組 津金 暖人

私たち1年5組はこんにやくパーク、めんたいパーク、楽山園に行った。最初に行き先を聞いた時は正直期待してなかった。そして、研修旅行当日。こんにやくパークに着いたらみんな意外にもはしゃいで楽しんでいた。工場見学では、さまざまなこんにやくを作る過程を見ることができとても興味深かった。その後の楽山園やめんたいパークも歴史的な建物の構造や明太子の製造ラインの見学など貴重な体験ができた1日になった。



1 日 研 修 旅 行

血が騒いだ工場見学

2M 岡田 志織

私たちは神戸製鋼グループ(KOBELCO)の真岡製造所と真岡発電所を見学してきました。

真岡製造所の工場内には、天井付近を制御室ごと移動する巨大なクレーン、大人よりも大きなアルミロール、その他さまざまな機械等、機械工学徒の血を騒がせるものばかりがあり工場見学を純粋に楽しむことができました。

お台場や横浜に行く他学科の友人たちを少し(だいふ)羨みつつも、学びを得られた良い研修旅行にすることができたので良かったです。



飛行機の安全を、守る奴

3M 田嶋 淳史



3Mは9月21日に研修旅行で成田空港にある株式会社JALエンジニアリングのエンジン整備センターを訪れました。整備センターでは実際に使用されていたエンジンがクレーンから吊り下げてあり、工作機械を使用した部品の修理や、組み立てだけでなく、蛍光塗料を使用したキズの確認まで間近で見ることができました。学校では知ることが難しいリアルな現場の雰囲気を味わうことができ、将来と向き合う良いきっかけになりました。

カップラーメンから教わったこと

2E 多胡 陽向



私たちE科は神奈川県横浜市のカップラーメンミュージアムを見学した。ミュージアムではカップヌードルの製造方法や発売されるまでの歴史などを知った。その中で学んだことがある。「クリエイティブな発想」と「諦めない心」だ。カップラーメンの発明者である安藤百福は挫折をしながらも諦めず、誰も思いつかないようなアイデアで様々な大ヒット商品を生み出してきた。そんな安藤百福を見習い、今後の苦難を乗り越えていきたい。

リニアモーターカーを見て

2J 余 夏輝

私達は約2時間かけて山梨県立リニア見学センターに行った。実際にリニアモーターカーを見て時速500kmを肌で感じとれた。その迫力は映像とは全く異なり圧巻された。時速500kmは東京-大阪間を約1時間で移動すると言われており将来の交通の利便性に大きく貢献すると思った。今回の研修旅行を通じて最新の技術に触れられたので、私も高専で技術を学び未来に繋げていきたい。



歴史を感じた施設見学

3E 大河原 楠貴

研修旅行で我々は茨城県のつくば方面を訪れました。台風一過で心配された天気も絶妙に推移し、暑すぎず寒すぎず絶好の研修日和でした。

午前には産業技術総合研究所の展示施設で同研究所開発の最先端技術に触れ、午後には地磁気観測所を訪ねました。微弱な地磁気捕捉のため近郊の鉄道に交直両用モーターの装備車両使用を強いる厄介者との評もある同観所ですが、大正時代建造でまだ現役の施設には歴史が感じられ、予想外に見応えのあるものでした。



未来は意外と近いかも？

3J 水上 寛大



しばらくぶりの東京は、未来は意外なほど近いことを教えてくれた。巨大な地球がシンボルの日本未来科学館、通称未来館。数ある展示の中でも特にロボットに関する展示が目をついた。人型のリアルなロボットやアザラシ型の愛らしいロボットまで、様々なロボットが展示されていた。最近になって飲食店などでも見られるようになってきたが、さらに自分たちの生活にロボットが入ってくると考えるとワクワクするのは自分だけだろうか。

An Unforgettable Trip

2K 泉田 光範

We, the students from Department of Chemistry and Materials Science at Gunma College, enjoyed the chance to visit the National Museum of Emerging Science and Innovation (Miraikan) on September 22. We understand the things happening in our life from a scientific and technological point of view. My friends and I were particularly impressed by the number of Japanese Nobel prize laureates and their messages to us. We saw how the knowledge which we learn in class can be practically used to create a better world. Thanks to this trip, we saw the beauty of science, and now we study the lessons in our school with more passion. (2年4組副担任のルカノフ先生に英語のサポートをして頂きました)



初めての研修旅行

2C 中野 栞太郎

私たちは今回の研修旅行で、秩父ジオパークへ行き、聖神社で祈願をしたり秩父の景色を展望したりしました。また、渡良瀬遊水地にも訪れ、土地の仕組みや歴史を地元ガイドの方から学ぶことができました。

去年の研修旅行はコロナ禍の影響で中止になったことから、今回が初めての研修旅行になりました。学科全員で貴重な体験できたことを本当に嬉しく思いました。



研修旅行で

3K 力石 秀亮

今回の研修旅行で3Kはカップヌードルミュージアムと東亜石油株式会社の工場に行きました。カップヌードルミュージアムでは自分だけのオリジナルカップヌードルの作成などを体験しました。また、東亜石油では石油製品の製造工程の説明と工場の案内をしていただきました。

オリジナルカップヌードルの作成も思っていたよりも自由にできて楽しく作ることができました。また、石油精製・発電の装置はとても迫力があり凄かったです。



3C研修旅行報告

3C 菊池 静琉

3Cは東京ゲートブリッジ、東京スカイツリーへ行きました。東京ゲートブリッジ走行体験では周りの環境により特殊なデザインになっていることが分かりました。東京スカイツリーでは地上350mに位置する天望デッキまで昇りました。ボルトを使わず、溶接で鉄骨を組み上げたことを知り、日本の施工技術の高さに誇りを持ちました。約3時間の自由行動があり、天望回廊へ行ったりソラマチで買い物などをして楽しみました!!



4年

社会見学旅行



知らない大地

4M 山菅 昇悟

群馬からはるか遠い九州、山陽の地は我々が普段良く見る関東平野とは全く違う佇まいをしていた。最初に訪れた広島、その県庁所在地である広島市は、県全体の中心都市であるが、原爆の跡と記録や路面電車と言った歴史的なものを多く残している。同様に、未だ造船所で有名な賑わい観光地ともなっている呉、多くの歴史とその実体を残している厳島と言ったように、広島は「歴史を守っている」という印象が強いところであった。

次に向かった福岡の街々は広島に比べ歴史的要素が薄く、都市としての印象がとても強い場所だった。街の中心を通るように続くモノレール、橋から見る川沿いに立ち並ぶビルと街、多

くの屋台で賑わう博多の屋台街、ものすごい人と活気で溢れる宮崎宮の祭りと言ったように、単体の物、出来事を観光物にするのではなく街の人々の暮らしそのものが観光対象のようだった。このように、その土地でのみ感じられるその場所特有の雰囲気、文化や人々と、今まで知らなかったものを観て、聞いて、体験できた素晴らしい旅行であった。



共に過ごした4日間で

4E 鈴木 真悠

数年ぶりの実施となった社会見学旅行で、私たち4Eは京都・大阪へ行ってきました。

初日はクラスメイト全員で、バスガイドの方の案内のもと、京都大学や清水寺を周りまわりました。京都大学は敷地内に歴史館があり、人々が学問を修めるために多くの苦勞をしてきたことを知りました。道中では建物、文化や伝統芸能について解説を頂き、京都の歴史について造詣を深めることができました。

班別行動では、大阪を訪れました。京都とは大きく趣を異にした大阪、その活気あふれる雑踏と熱気は忘れられません。また、大阪ではUSJにも足を伸ばし、日常を共にする仲間たちと非日常を体験してきました。



関西私学の雄

4J 野村 隆晃

私たち4Jは二泊三日で京都・大阪に行きました。本稿では、初日の同志社大学訪問での模擬講義とキャンパスツアーについて書こうと思います。

模擬講義は対面での会話における非言語情報の役割という、聞いただけではJ科との関連が分かりづらい話題ですが、非言語情報の一つである“うなずき”が画面上のアバターの親しみ具合と大きな関わりがあり、J科の守備範囲でもあるインターネットを用いたコミュニケーションの発展に大きな影響力を持つ可能性があるというお話を聞きました。私は研究が数式をこねくり回して無機質な物理現象を解析するものだと思っていたのですが、人間と関わりがあるのだ

という印象を受けました。

キャンパスツアーでは、京田辺キャンパスの施設めぐりをしました。京田辺キャンパスには群馬高専の約10倍の1万人の学生が通っており、教育・研究施設に加えて、体育会の設備も充実しているため、その規模は群馬高専と比較すればするほど圧倒されました。

2時間程度と短い滞在でしたが、非常に濃い体験でした。



はぴはぴ研修旅行

4K 中曽根 恋音

私達は大阪と京都へ研修旅行に行ってきました。

研修先で訪れた大阪科学技術館では日本製鉄さんのお話を聞いたあと、館内を自由に見学しました。館内にはバイオテクノロジー・SDGs・宇宙技術・新しい素材など、さまざまな分野の先端科学技術に関する資料が数多く展示してありました。また科学を学べる簡単なゲームがある体験参加型の科学館となっており、科学の不思議な体験がたくさんできて楽しく学ぶことができました。

次に、太陽の塔を訪れました。太陽の塔は、メディアで見る機会があったので名前は知っていましたが、実際に見に行くのは今回が初めてでした。近づくにつれてどんどんと大きくなる太陽の塔に迫力を感じ、目の当たりにするとその大きさに圧倒され、芸術が爆発しているのを感じました。岡本太

郎さんの言葉の一端を感じ取れたような気がしました。

この研修旅行を通して普段では体験できないようなことを肌で感じながら、楽しく学ぶことができました。



大阪の夏を満喫しきった3泊4日

4C 吉田 将崇

9月13日から15日まで、私たち4Cは大阪へ社会見学旅行に行きました。ここ数年はコロナ禍であまり旅行に行けなかったこともあり、我々学生のテンションは常に上がりっぱなし。クラス内での行動予定も初日以外はすべて自由だったことも相まって、各々好きな時に好きな場所に遊びに行くという最高の社会見学旅行となりました。

社会見学先として私たちが選んだのは伊丹空港で、初日に学科全員で飛行場を見学させていただき、その足でホテルへと向かいました。ホテルはとても綺麗で駅からのアクセスも良く初日の夕方から道頓堀や通天閣などの観光スポットを回り、夕飯には大阪名物のたこ焼きを大皿に山盛り頼んで複数人で食べるなど大阪の夜を満喫することができました。更には2日目にはUSJ、3日目には太陽の塔を観光したのち大阪

の友人と焼肉に行き、最終日には大阪市立美術館に立ち寄った後に帰宅し、大阪を心行くまで楽しむことができました。





インターンシップ支援室から

ウィズコロナでのインターンシップ

室員: 出口 米和 (室長)、中山 和夫、
鈴木 一史、松本 智美 (学生課教務係)

まずはじめに、インターンシップ研修生を受け入れ、ご指導していただきました研修先の皆様に深くお礼申し上げます。大変ありがとうございました。来年度もよろしくお願い申し上げます。

また、4年生のインターンシップ先を決定するにあたり、ご指導、調整等をしていただきましたインターンシップ担当教員の先生方には多大なるご支援をいただきました。ここに感謝申し上げます。

今年度はコロナウイルスの影響が残る中、対面参加型のインターンシップへの参加も可能として実施いたしました。インターンシップ先の決定、日程、実施方法などコロナ前とは違って色々な影響がありました。来年度は、今年の実験を踏まえてガイダンス、学生さんへの情報提供をしていきたいと考えています。そのような中ではありましたが、夏季休業期間中に本科4年生が71名、専攻科1年生は5名がインターンシップへ参加しました。インターンシップへの参加が、学生さんの勉学意欲の向上と将来を考えることにつながることを、インターンシップ支援室スタッフ一同心から願っております。

人と携わったインターンシップ

4K 登坂 光優



私はサントリーホールディングスのインターンシップに参加し、主に製品の製造過程やそのために必要なこと・重要視していることについて学んできた。期間中は多くの社員の皆様から質疑に答えて頂き、人と関われば関わるほど学びが深まるインターンシップであった。他高専の学生ともグループワークや会話を通し、5日間の中で絆が生まれた。数年ぶりの開催であったが、多くの方々の力添えにより見聞が深まるインターンシップを行えたことに感謝したい。

シーケンスとPLC

4E 田村 潤哉



私は、8月23日から31日まで、株式会社富士電機の東京工場のフィールドサービスエンジニアでインターンシップを行いました。主に、インターンシップでは、工場見学、シーケンスの製作、通電試験やPLCプログラム作成を行いました。シーケンスやPLCは学習したことがない上に、シーケンスは配線が多く難しかったが、楽しくできました。それに加え、工場見学では、実際に仕事をしているところを見学させていただき、大きな装置を配線したり、プログラミングなど、なかなか見れないことが見学でき、貴重な経験になりました。

インターンに行ってきました!

4C 北村 希美



夏季休業中の9月5日から9日に、私はオリエンタル白石株式会社のインターンシップに参加しました。場所は神奈川県小田原市で現場は小田原市の西湘バイパス萬丈橋という橋でした。萬丈橋では塩害に対する補修工事を行っていました。初めて実際の現場を見た際に、学校で習ったことが社会に出て通用することを知りました。また社会人としての常識やマナーを知ることが出来ました。

この5日間で普段ではできない貴重な体験をすることができました。これからも学校での勉強を頑張り、この経験を進路に役立てていきたいと思っております。

令和4年度 球技大会 & 体育祭

学校行事からの「学び」と「思い出」

一般教科 (人文科学) 准教授 佐藤 孝之

学校行事である球技大会は時期をずらしながらも毎年開催されてきましたが、体育祭はなんと4年ぶりに開催されました。スポーツに参加する学生、それを見て応援する学生など、それぞれが晴天の下、仲間と時間と空間を共有し「わちゃわちゃ」できたことは学生の思い出のひとつとなったのではないかと思います。とくにほとんどの学生は体育祭を初めて体験するという事で事前練習が活発に行われているクラスもありました。普段の学校生活では体験できない他学年との交流など貴重な学びの場面も多く、それぞれの絆が強まったのではないのでしょうか。多くの辛抱と制約を求められる時代において、学生および教職員のすごくイキイキとした表情が見られたそんな一日でした。審判や競技運営に協力してくれた学生のみなさん、ありがとうございました。

球技大会および体育祭の優勝クラスは以下の通りです。



体育祭総合優勝 3年環境都市工学科

球技大会	優勝
バレーボール	3年物質工学科
ソフトボール	専攻科
卓球	1年4組
フットサル	4年物質工学科
テニス	5年電子メディア工学科
バスケットボール	専攻科



海洋観測データIoT技術実証衛星「KOSEN-2」の開発について

「我が衛星に一片の悔い無し」

1AP 齊藤 創

2022年10月12日(水)の9時50分に、私たちロボット工学研究室で開発した2Uサイズの人工衛星「KOSEN-2」を載せたイプシロンロケット6号機が、内之浦宇宙空間観測所から打ち上げられた。ロケットは高度200km付近で衛星を軌道に投入できないとして破壊指令がなされてしまい、衛星は軌道に投入されることなく、その生涯を終えた。KOSEN-2では、1年間の開発期間で、地殻変動を観測するためのアンテナを宇宙空間で展開し、その姿勢を地球に向け続けるという非常に難しいミッションが課せられていた。結果として、衛星を運用するまでにはいたらなかったが、開発していく中で得られた経験もあった。僕は本科5年間柔道部に所属しており、誰かと協力してものづくりをするという経験がなかった。そのため、今回実際に衛星開発を進めていく中で、加工部品の納期や予期せぬトラブルなど、本科の授業だけでは出会わないような壁に直面した。そんなときにも、先輩や後輩たちと

意見を出し合い、なんとか課題をクリアすることができた。こうした仲間と協力するという経験が、自身を成長させる鍵になると考える。既に後継機であるKOSEN-3の採択が確定しているため、開発で得られた経験を活かして、後輩のサポートに尽力したい。



「高専ワイヤレスIoTコンテスト2022～高専が地域を変える!～Wicon 2022」採択

「高専ワイヤレスIoTコンテスト」採択を受けて

5C 木暮 悠暁、吉田 智咲

この度、5C木暮悠暁・吉田智咲(指導教員:井上和真)とAP2清水敬太(指導教員:矢口久雄)で構成されるチーム「Eco-Smart防災レンジャー」の提案が2022年度の高専ワイヤレスIoTコンテスト(WiCON2022)にて採択していただきました。提案名は「自然エネルギー開発と可搬型IoTセンサによるEco-Smart Townの実現」です。

土木系のテーマである防災や橋梁と機械系のテーマである風力発電のテーマを融合した上で、IoT技術を有効に活用するという提案を評価していただきました。

この提案では、安価で小型なIoTセンサを活用し、河川災害の防災情報取得し発信や橋梁の損傷検知を行うシステムの実証実験を実施します。この成果により、地方公共団体の管理者や技術者には現地調査や維持管理の負担を減少に貢献することが期待できるとともに、地域住民にはTwitter等のSNSも活用し、防災情報の発信を行います。

また、災害時にも安定してIoTセンサを運用するために、太陽光発電と風力発電を活用した発電システムの検討も併せて実施します。

現在は、群馬県下仁田町の協力の元、現地の橋梁や公園・河川で実証実験を行っております。2023年3月の表彰審査、5月の成果発表会に向けて引き続き、頑張ろうと思います。



編集後記

ここ数年間は、新型コロナウイルスの影響で、様々な行事が潰れたり、オンライン開催となってきました。しかし、今年は、流行前と同程度とはいかないまでも、高専大会、研修旅行など、多くの行事を行うことができました。また、多くの部が全国大会に出場してくれたおかげで、今回は内容盛りだくさんでお届けできたかと思えます。今年度も残り少なくなってきましたが、勉強・課外活動・研究など、高専生活を満喫していきましょう。
(広報委員長 佐々木 信雄)